

内閣府だより

平成21年度「子ども霞が関見学デー」

(8月19日・20日)



会場の様子



サンゴのネックレスの制作体験



かりゆしウェアを試着しての記念撮影



三線の演奏体験

平成21年8月19日と20日の2日間にわたり、内閣府本府庁舎地下講堂において、「子ども霞が関見学デー」が開催されました。

「子ども霞が関見学デー」は、文部科学省をはじめとした各府省庁が連携して、業務説明や省内見学を行うことにより、親子のふれあいを深め、子どもたちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会とともに、政府の施策に対する理解を深めてもらうことを目的に開催しています。

内閣府では、『内閣府へめんそー

れ!』をタイトルに、多くの部局によるクイズやゲーム、実演・体験プログラムなど工夫を凝らしたコーナーが設けられました。

沖縄担当部局においても、「沖縄を体験しよう!」というテーマの下、「サンゴでネックレスを作つてみよう!」、「星砂つてどんな手触り?」、「三線つてどんな音?」、「かりゆしウェアの着心地は?」、「沖縄料理つてどんな味?」の5つのプログラムを実施しました。

会場は、沖縄の自然にちなんだボスターや横断幕に彩られ、また、職員の演奏による三線の音色が流れる

内閣府への来場者がこの2日間で715名に至る、近年にない盛況ぶりとなつた「子ども霞が関見学デー」。沖縄担当部局では、沖縄の魅力を引き続き発信してまいります。

子どもたちは、サンゴや星砂に触れたり、沖縄の伝統楽器である三線を弾いたりなど様々な体験プログラムを通じて、沖縄独特の自然や文化、歴史などについて学んでいました。子どもたちは、サンゴや星砂に触れたり、沖縄の伝統楽器である三線を弾いたりなど様々な体験プログラムを通じて、沖縄独特の自然や文化、歴史などについて学んでいました。

など、東京に居ながらにして沖縄を訪れたかのような雰囲気となりました。